
第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河外伝

ロボット大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河外伝

【Nコード】

N41111I

【作者名】

ロボット大好き

【あらすじ】

作品紹介の話です、次からはプロローグ的な話になります。

作品紹介（前書き）

第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河の後の話です。
主にマクロス・フロンティアとのクロス作品になる予定です。

作品介绍

第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河の作品とのさまざまな作品のクロス物です。

出演作品

第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河
機動戦士ガンダムSEED DESTINY
マクロス・フロンティア
バンブレストオリジナルキャラ&ロボ
オリジナルキャラ

以上でお送りします。

作品紹介（後書き）

作者がロボット物を書くのが初めてなので戦闘描写がおかしくなる
かもしれません

プロローグ

全銀河中未曾有の危機であるアポカリプス戦後の影響は未だに大きいのだ、

特にとバッフ・クラン長年戦い続けていたバルマー本星が流星群のお陰で壊滅状態になっているのだ。

幾らバッフ・クランも本星を失ったとも言えども長年戦い続けていた因縁は簡単には消えはしない。

おまけに地球側の呼び名であるバルマー側の戦力は低下しておりバルマー本星を守護していた守護神はαナンバーズに手によって滅ぼされている、これを好機と思うはぐれバッフ・クラン軍隊は確実にその本星から脱出したバルマー組みに向けられるのは必然である。

それを見ていられないのがわれらがαナンバーズ艦隊である、濡れ衣でたとえ地球から追放されたとしても銀河を消して再び銀河を再生する相手とも戦い勝利してきた者達が集う戦闘集団である。

それゆえに自らもその責任の一端があるαナンバーズのメンバーは地球に帰る選択を少しだけ伸ばして

半年間の間バルマー本星の復興及びはぐれバッフ・クラン軍隊と戦いながら自らもあのアポカリプス戦後

の影響もあり特機と呼ばれるスーパーロボット軍団の大半はようやく修理できた。

特に特機の修理の壁にぶち当たったのはガンバスターと呼ばれる特

機の中では上位の部類に入る機体である、なぜならば、それはガンバスターの動力炉は小型のブラックホール機関を二つも有して機動しているのだ。

近くに本物のブラックホールが存在している中では他のブラックホールもその影響を受けやすい性質を持ったために機体その物は修理が完了しているが動力が無ければ幾ら強い機体であってもただの鉄の塊に過ぎないのだ。

逆に他の特機では五機合体のコンバトラVや兄弟機のボルテス・ダンクーガなどが比較的には難しいが

動力部分や装甲を修理すれば直る程度で有った為に結果として最強と呼べる機体の一角を担っていた

ガンバスターと同じ動力を使用しているガンバスターの量産機であるシズラーシリーズの一つであるブラックもまた使用は禁止されているのだ。

それでもはぐれバッフ・クラン軍を倒せているのはやはり新たにバルマーの統制者となったアルマナ姫と強力して地球側の呼び名である機動兵器ナイトクラスなどの参戦大きいだろう。

それにMSの母艦も被害は大きいのだ、惑星間航行を目的として作られているマクロス級や対宇宙怪獣戦闘用に創られているエクセリオン級等は装甲・武装・動力部が確りとした造りになっているが。

ラーカイラム・アークエンジェル・エターナル等戦艦・母艦と呼べるものは全て地球と宇宙と戦いを想定して作られているために装甲・武装・動力部も量産型であって簡単な造りなのだ一部を除けば。

つまり、αナンバーズで戦っていくためには当然母艦の改造は必須事項である、宇宙怪獣・バッフ・クラン軍・バルマー勢力等多くの敵勢力の科学技術力・攻撃力・防御力・移動力は地球の上をいっているのが
当たり前である。

たとえばビーム兵器などの熱を逃がす装甲を持つラミネート装甲と呼ばれる装甲であったとしてもそれは地球のMSのビーム兵器より戦闘・または戦艦等の艦対戦を想定した造りである。

惑星間戦闘を想定した造りをした軍隊とともに戦えばその陣営側の機動兵器のビーム兵器類の攻撃で簡単に撃沈されてしまうのだ。現にバッフ・クラン軍が使う機動兵器は宇宙怪獣にも有効な武器がついているのだ、それに対応するためにアークエンジェルの装甲であるラミネート装甲は新・ラミネート装甲に変更されており。

通常の装甲より熱の伝導率が五倍増し・実弾防御力は三割増しになっている、動力部と武装もそれぞれ三割増しになっている。

次にラー・カイラムも装甲だけは通常のラー級より五割厚くなってIフィールド発生装置が取り付けられており共にビーム兵器実弾兵器の防御力は上がっている分、整備する分には時間がかかる艦になっている。

エターナルも元々は高速艦でありフリーダムとジャスティスの専用運用艦の名は伊達ではなかったその分MSの収容スペースと物資運搬する部分は拡張された上にやはり動力・武装・装甲には手を入れられている。

こうしてさまざまな努力と改造のお陰でさまざまな作戦が成功した

αナンバーズの母艦群ではあったが、やはりラスボス・宇宙怪獣との死闘前にはさまざまな所・場所が修理の必要があったのだ。

エルトリウム、バトル7、大空魔竜、ソロシップ、アークエンジェル、エターナル、そしてラー・カイラムの合計七艦また一部の艦とソロシップをはじめとするMS母艦と呼ばれる戦艦は完全にエルトリウムの内部に収納されている、次元移動するにも固まって移動したほうが得であると同時にエルトリウム内部でも修理が可能であるという利点もあるからだ。

本来ならばバトル7の工業艦スリースター等に入ってもらい直接【戦艦の装甲】を作ってもらい修理してもらえばいいのだが、バトル7船団現状では守りの要であるバルキリーの早期復活を目的とされており

その製造ラインの殆どがバルキリー関連で統一されている、逆にMSの戦艦などMSのパーツ類はエルトリウム内完備されているためにこちら側での整備がどうしても早くなってしまう。

それにだMSにも一部特殊な素材を用いた機体があるためにその製造ラインの確保と忙しいのだ。

それにGGGディビジョン艦隊のラインの殆どは勇者と呼ばれる特機の専用ラインが引かれている為に

零からMS・バルキリー等のほかの製造ラインを引くことよりはるかに時間はかかるのだ。

それに新たにラインを引ける余裕は殆どない為に仮に引けたとしてもだ余慶に混乱を招く結果として

このようなライン取りとなっている。

こうしているうちになんとか次元移動が可能なバンプレイオス機がようやく直った事と復旧にも一段落したこともあり、αナンバーズは一度地球へ帰り、この事を本部へと報告する必要があった。

それゆえにだれも気づかなかった銀河の中心がブラックホール化した時に置き去りにされたイデオンのゲージが光っていた事に・・・それが新たな物語へと続く始まりの鐘とも知らずに・・・

新SRXが持つXNディメンションの修理がようやく完了したのだ確かにフォールド機関やワープ機能を有した戦艦等があるがさすがにブラックホールを発生させた余波の影響でまともに移動できたとしても

一万キロ後年がやっとであるのだ。

しかも連続移動が可能になるまでのエネルギー効率が悪すぎるために結果としてXNディメンションに一度は助けられたαナンバーズにしてみればこの機能の修理は待ちに待った地球への帰還の時でも合った。

そしてついにXNディメンションに火が入り、いよいよ地球へ向けてナンバーズ艦隊が次元移動した時それは起きたのだ。

「ライ・・・一体どうゆう事だXNディメンションのリミッターが振り切れているぞ」

「しるか・・・こっちが聞きたい、今原因を調べているために強制的にXNディメンションを止めるパスを打ち込んでいるが全くいう事を聞かないんだ」

「ライ・・・そっちもなの、念動力を切ろうとしてもまるで機体が言う事を効かないの」

ならば考えられるのは一つだけそれは何者かの意思による故意の暴走が考えられるがそうもいつてられない、次第にS R X機を中心として光りはナンバーズ艦隊を完全に巻き込み、イデオンも同時に消えていたがそれを観測できるまでにはバルマー本星は復旧していなかった。

そして完全に光が消えた後にはナンバーズ艦隊の影も形も無くなっていた。

その頃・・・

別の銀河を放浪しているマクロス船団の一つであるフロンティアには銀河の歌姫であるシェリルノームが銀河ライブの最終公演を行う3時間前まで時間は迫っていた。

プロローグ（後書き）

ようやくプロローグが書き終わりました、

話の中心がナンバーズとバルマーの話になっています。

現れた謎の船団（前書き）

今回はマクロス側を中心に話を進めていきます

現れた謎の船団

マクロス・フロンティア船団はまっすぐに銀河系を進んでいた時・

フロンティア船団が進んでいる前方の宇宙空間の異常なまでに空間のその物がねじれているのが人の肉眼でもくっきり見えるほどい

んでいたのだ。

それは行政府の軍司令部でも確認されていたのだ、またそのデータを見たダグラス大統領は、

「まずいな・・・巨大な何かがフォールドアウトしてくるぞ、しかもだ、我々の船団がこの空域を通るのは統合政府にプランとして上に通しているのにもかかわらずだ」

レオン・三島にしても同じ意見である、ただでさえ銀河の歌姫のライブの為に警備の兵を割いている辺り、マクロス・Fにおける現在のシェリル・ノームの重要度は確かなものだ。

さらにあの【未確認生物バアジラ】対策用の民間プロバイターS・M・Sがあるのだ、無論表向きは

軍の最新鋭機の実験部隊と称されているが、これもある意味正解でもあり不正解でもあるのだ。

それは仕方が無いことでもある、軍隊が使っているバルキリーのタイプは再設計されたVF-171型機であり使いにくい上に再設計も困難なVF-19改よりコストも使い安さと整備性能を考えると同然だろう

しかしだ、それでも何時また現在のVF機が対応できない強敵が出ることも知らない銀河の旅なのだ

それゆえに最新鋭機のテストの為に軍は人を出したりしない、仮に出してもそれで事故を出して死亡されたりすれば色々面倒なのだ
それゆえに民間にたよりきっているのがフロンティアの内情でもある。

そのため一刻も早い新型機と言われているが現状その最新鋭機は未だに試験飛行中なのだ、それを

今回の事程度は出せない上にフォールドアウトに巻き込まれたりすれば確実に機体データとパイロットの両方が失われてしまう。

それゆえに十分な機体データやパイロットの育成が簡単なVF機を待機されているがそれでも軍にも面子があるのだ未だにあのマクロス・7船団で使われてプロト・デビルンを撃退したダイヤモンドフォースの栄光と実績をあやかっただのステルス戦闘機型のバルキリーVF1171型 ナイトメアプラスがすでに発進可能な状態で三小隊【合計12機】が待機しているのだ。

本当はエメラルドフォース側の機体も良かったのだがあればパイロットを選びすぎる機体であるのだ。

またゴーストと呼ばれる機体もあるが、これはよほどのことが無い限り使用は統合軍政府から控えられているのだ。これはかつての暴走事件を教訓をしていることがいえる、

それにだ今はフロンティア側の全てのコロニー群や軍にもフォールドアウトに巻き込まれる可能性宙域

から少しでも離れるために、現在船団の全ての逆噴射装置で少しづつ後退している最中なのだが。

アウト時の空間域を考えると間に合うか、間に合わないかぎりぎりの後退なのだ。

それはなぜかフォールド移動は移動する側の空間と移動する前の空間をそっくりそのまま入れ替えることで移動するシステムであり、その移動は大型な物になるにつれて、空間もそれに比例して巨大になっていくのだ、もし仮にそれに巻き込まれたりすると巻き込まれた部分と巻き込まれない部分は二度と出会うことはなくなるのだ。

それゆえにマクロス・F・船団は急いで後退しているのだ、同時にシェリル・ノームのライブは中止には出来ないのだ、なんせ銀河にしない者がいないほどの有名人である。

ライブの中止の情報が即座に他の船団に情報が流れるのは確かだ、このライブ為に他の船団の記者がゲストI・Dで入っているのだ。

そうしている間にも一刻と確実にシェリル・ノームのライブが開く時間とまたどこかの勢力かまたはバジャと呼ばれる謎の生命体なのか分からないがフォールドアウトしてくるのは時間の問題でも合った。

そして・・・一時間後・・・空間その物が振れていき・・・ついに巨大な何かかフォールドアウトしてきたと同時に巨大な光が空間全体に広がりその光が消えて現れたのは。

なんと巨大すぎるぎを白色を中心とした戦艦と呼べるものと、またデータではマクロスセブン船団と表示

されたのだ、ディビジョン艦隊もデータ上は無いのだそれゆえにその中心にはバルキリーより3倍以上巨大な人型機も確認されていたと同時に謎のグレー色のした飛行機型の機体がリーダー上に映っていたがそれを気づくものはフロンティア側にはいなかった。

そのためにグレー色の飛行機型の機体はその巨大すぎる人型兵器の手によって白い巨大な戦艦らしきものに運び込まれている最中であつた。

ディビジョン艦隊も同じくその場でデータを収集している最中なのだ、これは他の艦よりGGGの艦隊にはデータを収集する特殊な艦があるためと同時に自分たちが今現状どこの銀河に飛ばされたのか調べる為にも行っているのだ。

この機能はマクロスと名が着く船団の殆どは有してはいない、索敵などバルキリー三小隊分あれば事足りるのだ。

現にバアジラに攻められた時には索敵能力の有無が明白になるシーンが何度も本編でも描かれているのはそのためである。

一方の自分【フロンティア】達の前にあのマクロスセブン船団が現れたのだから、そちらの方に意識が向けられて注意力が散漫になつていてもだれも知らなかった。

だが一方のαナンバーズ達もようやく長かったのか短かったのか分からない移動を終えて現在の状況を整理中であつた時にフロンティ

ア行政府からマクロスセブン船団宛にこの世界では当たり前
のワールド通信で通信が開始されようとしていた。

交渉開始

いきなりフロンティア船団の前に現れたなぞの船団とマクロス7船団の両方にフロンティアは政治的な意味で特使を派遣することが決定した。

これはヴァジラ対策で少しでも戦力がほしいフロンティア船団は先の戦いでプロトデビルン群を歌で退けた実力がありまた軍隊の質も実質船団の中ではトップに位置するほど優秀な人材がそろっているのだ。

そしてまたなぞの船団の方もフォールドアウトから全くといっていいほど攻撃の意思がなく直営の部隊の発進していいことから、なぞの船団は商船類の類では無いかというフロンティア政府の上層部は

結論付けていた、大なり小なり銀河では商船クラスがあり、中には違法ぎりぎりの物資を売り歩いている商船もあると聞く、そんな商船の類は統合軍政府の商船の中に登録がされていない商船も無数にあつたりするのだ。

だからこそ気づかない商船群と位置づけていた艦隊の方が圧倒的な戦力を有している艦と言うことに。

それにあれだけ派手ないろをした船団は商船しかないだろうというフロンティア上層部の思い込みも有ったりしたのだが。

その頃、白い船収容された灰色をした可変機らしきした機体はから

強制的に出されたパイロットをそのまま直接病棟へ移動された。

またその可変機の整備及び解析にαナンバーズの最大の整備隊の班長でありアストナージが主体となり
解析が行われていた中、それはかなり驚くべき結果が出たのだ。

それはRナンバーのR1と同じで形態で有りながらいくつかの武装と骨組み等が一部変更されている。
そしてなおかつ驚いたのは確かにR1は量産に向いているように造られているのだ

現に荒廃した未来にてR1は量産化されてロストマウンテン等から見つかっている事からも言えるが
ここまで変更されているとこれは完全に量産化に向けての開発された試作機扱いと機体になっているのだ。

だがαナンバーズの世界ではすでにR1の可変機構を排除した量産化に向けてのオールブレードすでに
αナンバーズには一機だけだが配備されているのだ。

それゆえにわざわざ可変機能残した状態で量産機を開発している情報
はさすがにヴァレッタの耳に入って着てはいなかったのだ。

だがR1の量産機計画は企画だけは存在していたがオールブレードの開発で頓挫してその開発中のパーツ全てオールブレード開発にまわされたお陰で何とか大戦中開発が終了した経緯が存在するのだ。

だからこそこの完全なゴースト機体はどこかの平行世界から流れつ
いたとアストナージ達とヴァレッタ
は位置付けていた時に、首脳部から全てのαナンバーズ主要・主力
メンバー達が集合の合図を受けて

各部隊のメンバーは会議室集合していった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4111i/>

第三次スーパーロボット大戦α終焉の銀河外伝

2010年10月9日06時58分発行